

1 学校として目指す授業

○丁寧に粘り強く取り組む力が身に付く授業 ○一つ一つの知識がつながり、「できた!」「わかった!」と思える授業 ○自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析(小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語の平均正答率は、全国・東京都と比較して高い傾向にある。その中で見ると、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」や既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の問いに対しては否定的な意見が多く、積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でないことが考えられる。
・算数の平均正答率は、全国・東京都と比較すると高い傾向にある。しかし、相対的に見て「C変化と関係」や「Dデータの活用」の領域の正答率が低い。特に結果や必要な数値を読み取り、その理由を言葉や数を用いて説明することに課題がある。	・本校の児童は、ICT機器の活用が勉強の役に立つことは理解しているが、ICT機器の活用状況が低い傾向にあり、全国と比較しても日常からの活用が十分ではないことが分かる。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析(小学校4～6年生)

・学習する理由について、「将来の仕事や生活に役立つから」の回答が一番高い。学習内容を生活とつなげて考えようとしていることがうかがえる。

・学習の進め方については、漢字・計算共に「まちがえたときは、どこでまちがえたのかを考えている。」の回答が高く、まちがいにに対して粘り強く取り組もうとする児童が多い。

・どのように学習を進めているかについて、「ねばり強く進める」が高いが、一方で「対話しながら進める」の回答が若干低かった。本校の児童は、自分の考えをもつことはできてきているが、それを説明したり、分からないときに質問して考えを深めることへの習熟が不十分である。

「学習動機」及び「学習の進め方」と「各教科の授業の内容に対する理解の程度」には相関があると東京都教育委員会の分析からも示されているため、「どのように解決していくか」「分からない時にはどうするか」など、今後は学習の進め方の指導に力を入れて進めていく必要がある。また、学習したことをアウトプットして再構築する機会、表現する機会をこれまで以上に意識的につくる必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

【東京ベーシックドリル(算数)の結果から】

・どの学年も、表とグラフに関する問題の正答率が低い。正確に数値を読み取り、グラフに表現することに課題がある。

・3年生で学習する時間や時刻の正答率が低く、日常生活から身に付けさせる必要がある。

・6年生では、がい数や割合の正答率が低いことから、下の学年から系統的に基礎・基本を定着させるとともに、テープ図や表などに表して理解させていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・基礎的・基本的な学力の定着が十分でない児童がいる。
- ・学習課題に対して、あきらめず粘り強く取り組むことに課題がある。
- ・積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でない。
- ・読み取った情報を自分の言葉で表現する力に課題がある。
- ・ICT機器の活用が日常から十分ではない。

4 学校全体の授業改善の視点

- A 基礎的・基本的な内容の定着の徹底。
- B 粘り強く取り組み、全ての児童ができた、分かったと実感する授業の実践。
- C 1人1台ICT端末を活用するなど、自分の考えをもち、表現する場面を取り入れた多様な授業形態。

- 【授業改善推進プランの活用法】
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
- ※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
- 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	A音読や書字を通し、ひらがなや漢字等を繰り返し指導し、定着を図る。 Bペアやグループでの発表を意図的に設定することで自分の考えの伝え方、話の聞き方の定着を図りつつ、対話的に学ぶ機会を作る。				A九九や繰り上がり・繰り下がりの計算を計算カードやプリント等を用いて繰り返し指導し、定着を図る。 C ICT機器を活用して、児童が考えるきっかけを作ったり、児童の考えを共有して学習内容の理解を深めたりできるようにする。				B 内容や時間の見通しをもち、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。 C ICT機器を活用するなど、様々な形で自分の考えをまとめたり発表したりできるような場を設定する。		A 授業の流れと学習活動を明確にし、見通しをもたせる。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 様々な材料による表現方法を知り、すべての児童が楽しく発想や構想ができるよう工夫する。				A みんなが安全に楽しく遊ぶために、守るべきままりを定着させる。 C 児童が互いの活動を見合ったり、自分の動きを撮影してもらったりしながら、良いところや改善点を伝え合う活動を取り入れる。				B 児童が主体的に考えることができるように、デジタル教科書等を活用した教材提示や発問の精選を行う。 C ICT機能のポジショニング機能や役割演技などの表現活動の工夫を取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。	
中学年	A 漢字学習や辞書引き学習、読書活動を進め、語彙を増やし表現力を高める。 C ペアやグループでの話し合い活動など様々な対話的な活動を通して、自分の考えを伝え合う力を付ける。		A 地図記号や方位、重要な用語等の基礎的な知識を繰り返し指導し、定着を図る。 B 資料から読み取ったことや考えたことを個人で書く時間、全体で話し合って共有する時間をそれぞれ十分に確保する。		A 東京ベーシックドリルを活用し前学年の復習を行い基礎基本の定着を図る。 C ICT機器を活用し様々な形で考えを共有して学習内容を深めたりできるようにする。		A 既習事項確認を繰り返し行うことにより、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 B 観察や実験を行う時間を十分に確保することや、分かったことを共有する時間を設けることで、友達意見を参考にしながら、全員が自分の考えがもてるよう授業を展開する。				A 生涯的に音楽とかわることができるようなきっかけづくりとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 中間鑑賞をしたり、表現方法や工夫を発表する場面を設定し、互いに認め合うとともに達成感を感じられるようにする。				A 安全に運動をするためのルールを知る。それぞれの単元で必要となる基本的な動作を身につける。 C 友達同士で技に取り組む様子をICT機器を用いて撮影し、自分のよさや課題を見つけて技に磨きをかける。				B 意見交流の時間を設け、自分の考えと他者の考えとの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 C ICTを活用して教材提示を工夫したり、児童の考えを可視化したりすることで、主体的な学習を促す。	
高学年	B 自分の考えを筋道を立てて整理し、クラスの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。 C Teamsなどを活用して、より多くの友達と意見交流する機会を設け、自分の思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。		B 社会的事象と比較したり関連付けて考えたりしたことを、図や文章でまとめる時間を十分に確保する。 C グラフや表、写真、地図に触れる機会を増やしたり、ICT機器を活用したりする等、資料の読み方を丁寧に指導する。		B 対話的な活動を通して解決の方法を比較検討しよりよい解決方法を身に付けていくよう指導する。 C ICT機器や図の活用を通して、自力解決場面や集団解決場面で充実した学習活動ができるようにする。		B 予想や考察しやすい事象を提示することで、児童が自分の考えを表現できるようにする。 C 観察物や実験の様子をカメラ機能を使って記録することで、より事実に基づいた考察ができるようにする。				A 生涯的に音楽とかわることができるようなきっかけ作りとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 材料や用具の使い方の確認と応用をする。 C 経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料を選ぶように、学習活動に幅をもたせ、自分なりの表現ができるようにする。		A 日常生活との関連を常に意識し、生活に生かせる知識・技能を身に付けさせる。 C 動画や写真、ICTを活用して調理方法や裁縫の仕方を視覚的に理解しやすくすることで、児童の意欲を高める。		A 安全な場作りを行う。発展的な動きに繋がる基本的な動作を身につける。 C 手本の姿の参考や、自分の姿の確認、試合の振り返り、作戦の組み立てなどにICT機器を用いて、よりよい動きを目指すことができるようにする。		A 単語や表現にゲームや動画資料を通して慣れ親しんだり、ALTのネイティブな発音を参考に繰り返し練習したりする。 C 発表やコミュニケーションの場面では、児童がプレゼンテーションソフトなどで資料を作成し、自信をもって発表できるようにする。		A 学校や学年行事、学級活動などを通して、学習した内容項目を生かす場面づくりを行う。 C ICT機器を用いて自分の考えを入力し、交流することで、主体的・会話的な学習を充実させる。	